



# FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第 84 号 (2012)

Shelby Club (USA ノースカロライナ州) 受入れ ED 高橋 京子

3月30日～4月6日



2010年ワシントンDCでの“世界大会”ホームステイでShelbyにお世話になった事で、初めてEDをすることになりました。英語もパソコンも若葉マークの私でも多くの方々から楽しんで頂けたとの声を頂けたのは、全くみなさまのお力添えに依るものと感謝に堪えません。この時期の最高のおもてなしである筈の桜も咲かず、はらはらドキドキでしたがお天気と幸運に恵まれた交換でした。

第1日目一出迎えは空港で初めてややこしい(!?) レイルパスの手続きがありました。幸運にも羽島さんという専門家のお力でスムーズに運びました。第2日目一午前中の日本文化の紹介も多彩な内容ながら、手際よくまとめられ、素晴らしかったと思います。

午後のウェルカムランチは道山閣を初めて

使用しましたがゴウジャスな雰囲気を楽しみました。雨もよいでしたが駅へ、盆栽博物館へ車を出して頂いたのは幸運でした。第3・5・7日目はフリーデー第4日目一都内バスツアーはこの春一押しの隅田川からのスカイツリー、東京ゲートブリッジ体感浅草、浜離宮と初めてのコースでした。第6日目一フェアウェルパーティーは会員お得意のポトラック形式で今回初めて「マイ箸・マイコップ・マイ皿」とエコへも取り組みました。美味しいご馳走、楽しいゲーム何より多くの参加者がありわいわい盛り上がりました。第7日目一見送りは東京駅で別れを惜しまました。この間、ホストの方々の連日の心からのお世話があったこと！拙いEDを多くの方々をサポートして下さいましたこと！FFならではの貴重な体験をさせて頂きました！有難うございました。

## 初めての受入れ

咲本 紀美子

3月30日から4月6日まで、シェルビーからMorga ご夫妻が我が家にホームステイ、私にとってFFメンバーになって初めての受け入れ、お会いするまで本当に不安でした。

でも大宮での迎え、最初から名前のハーイ KIMIと呼んでくださり、なんとフレンドリーなご夫妻いっぺんに緊張がふきとびました。

長いフライトでお疲れのご様子、簡単な自己紹介しながら軽い夕食、そして日本の畳に布団で休んでいただきました。



フリーの日は、英語のクラスの先生とそして仲間たちと川越見学、天気予報によると嵐がくるのか？途中解散、お昼はマクドナルドでクラス仲間達と先生皆にハンバーガーそしてコーヒー、何と、彼にご馳走になってしまいました。

先生とは、すっかり仲良くなり彼のかぶっていた帽子を頂いたり、今でも先生はメールで連絡しているようです。江戸博物館、浅草での人力車の体験、すもう国技館でおみやげを買ったり、でも、五十嵐宅での着物を着せて頂いたのが、一番うれしい体験だったようです。

自宅に戻りすぐ、写真を、TVとインストールしてまた興奮し、そのとき彼女は本当に嬉しそうでした、その笑顔で何故か私もホッとし、幸せを感じました。自宅でも、朝から冗談ばかりいいながらの毎日で、特に日本式のお風呂が気に入り楽しんでいました。埼玉FFクラブ 最高！と、言っていました、そして日本大好きとも。

メンバーの皆さんのご協力があってこそ無事ホストも務めることが出来ました、ありがとうございました。

## ハンソン夫妻

田中 新一&ヨシ



私達が受け入れた方はジムとマドレーン ハンソン夫妻で、カリフォルニアのサクラメントクラブから参加しました。

そして彼らはシェルビークラブのメンバーより2日早く来日しましたので私たちは成田飛行場まで迎えに行きました。

私たちは来日前に数回のメール及び写真の交換をしていました、そのために成田で会った時には昔の友だちに会ったようでした。到着当日は大宮のパレスホテルに泊まり翌日から上野や浅草の観光が始まり新宿御苑には娘家族孫達も合流してお花見をしました。

お花見弁当を作って行きましたのでピクニックのようだと喜んでくれました。そして埼玉クラブの一日おきのイベントにも参加して日本文化の紹介やバスツアー、パーティー等大変楽しんで頂きました。計画して頂いた役員の皆様と会員の皆様にお礼申し上げます。観光の合間をみて妻の妹を我が家に呼んで着物の着付けをし、楽しんで頂きました。毎日夜遅く迄話をしたりたくさん笑ったりと元気の良い楽しいご夫妻でした。とても400字では書ききれない良い経験をさせて頂きました。

## 造形の美

日置 旦子

久しぶりに海外の方のホームステイ、しかも由緒あるFFのお二人を、お迎えしました。FFの組織がしっかりしていて全て段取りが整っていて、心強いものがありました。

アンバサダーの方は、大学、小学校で英語を教えておられる方々で、気さくなアメリカ人と表

現するより英国婦人の感がする素晴らしい方でした。お二人共日本文化に詳しく造形の美には並々ならぬ関心を持っておられました。

川越「まつり会館」では、人間が動物の姿になる狂言の滑稽な舞には非常に楽しまれた様でした。又、岩槻の「東玉人形会館」では、雨の中にも拘わらず東玉の方がとても親切に説明して下さい、閉まっていた催し会場まで開けて下さいました。また、私達の為にわざわざ武士の装束を着て現れ、本当にびっくりし感激しました。コーヒーも頂き心が非常に和みました。

その「人形会館」は私達4人だけの客でしたが、一つずつ丁寧に御雛様の由来や歴史を説明して頂き、アンバサダーの方と同様に日本の歴史を感じました。私は退院後すぐホームステイを受け入れ多くのパワーを頂いて精神的にも元気になりました。有難うございました。



川越「まつり会館」にて

### タイ受入れ (4月10~12日)

#### 徹底したベジタリアン

Dang, Aoy さん夫妻が持ち込んでくれたもの

三好 紀子

Dang さんは国境警備の職を終えて、奥様の教職の退職を心待ちにしている、実に行動的な方で、Aoy さんは口数少なくニコニコしておられるチャーミングな女性である。Dang さんは、充実しているアメリカ FF プログラムのようすを逐次写真で送ってくれたので、成田では、すでによく知っているご夫妻を迎えたという気持であった。短い日本滞在中、お二人が強く願ったのは、東京を知り、桜を愛で、富士山を見ろという3点であった。それではと、丸の内、皇居、霞が関、銀座を経て、明治神宮を訪れた。

明治神宮の静寂に身を置いて、深い瞑想に入り、タイやチェンマイにかかわりを持つ見知らぬ人びとと電車内で、神宮で偶然ことばをかわすという驚きもあった。今年の桜はお二人を歓迎し、帰国の朝、我が家から少し歩いた高台で、青空をバックにした富士山の遠景を見て、すべての夢がかなったと、大喜びして下さったことが心に残る、私にとっても実にしあわせな3日間であった。



### オーストラリアの青年 J o d 君

(6月17~22日)

羽島 継男

今回のプログラムは、埼玉大学がオーストラリアの勤労青年を日本へ招いて、日本語と日本文化を勉強してもらおうとする初めての試みです。沼会長のお宅には Felix 君 19 歳、我が家には Jod 君 22 歳が1週間滞在することになりました。

両君ともシドニーで働く青年で、夜は同じ日本語学校で日本語を勉強する仲間です。

数ある世界の言語の中で、なぜ日本語を選んだの



J o d 君と居酒屋で

か Jod 君に尋ねました。約 10 年前にタイからオーストラリアに移住した Jod 君いわく、「タイと日本は古くからの友好国、それに日本はアジアのリーダー国だから」とのこと。目から鱗（ウロコ）の一言でした。日本でタイ料理レストランを持つことが彼の夢だそうです。実現することを心から願っています。

### インドからの Rupali さん一家に 日本文化紹介

五十嵐 佑子

6月5日にインドからの Rupali Balekundri さんが1歳の息子、姑、両親とともに5人で、五十嵐宅にお越しになりました。以前彼女は沼会長に「FF 埼玉に入会したい」と連絡してきていたのですが、ご両親たちが来日されて、離日直前に日本文化に触れたいと希望されてきました。

ちょうどFF 埼玉クラブとして大勢がイギリス、ベルギー渡航中のため、残った理事の岩崎さん、原田さん、斉藤さんとの4人で、お茶、お花、

着物の着付けを行いました。大変喜んで帰られました。

京都、奈良などを10日ほど旅行されて、日本の印象をお聞きしましたら、「日本は very green で美しい」とほめておられました。

Rupali さんは7年間日本に住んでいて、日本語がペラペラです。ご主人は日本の会社に勤めておられるインド人で、上尾に在住です。



Rupali さん一家と

## 食事会と談話会 5月9日

新井 ミキエ



年初の、はがきアンケートの中で多くの方が希望された食事会は5月9日水曜日平日にも係わらず26名、談話会には40名の皆さまが参加されて、会員相互の親睦を深めました。11時30分から、パレスホテルの中華料理を楽しみながら、新旧メンバーの自己紹介と、終わったばかりのシェルビー（アメリカ）クラブ受け入れの楽しいお話等に花が咲きました。午後からは、隣のシーノビル5階の部屋に移動して、埼玉クラブ初代会長・佐藤ゆきえさんによる談話会が開かれました。ウェイン・スミス氏によっ



て、1977年設立されたフレンドシップ・フォース誕生の秘話と日本クラブ、埼玉クラブ誕生までのとても貴重なお話を交えながら、FFの精神、「人と人を隔てている、さまざまな障害を乗り越えて、友情を生み出す環境をつくる」という唯一の目的の基に集まり、世界平和の大切さ、又、その他沢山の事を詳しくお話して頂きました。新旧会員の皆さまも改めて、FFの素晴らしさを認識されていました。

## レスターシャクラブ (UK) および リューバンクラブ (BELGIUM) との交流をおえて (5月23日~6月8日) ED 稲垣 洋子



Leicestershire



Bruges



Linde 小学校



Leicestershire

‘とうとうお会いできましたね。’ ED のジェフさんにヒースローでお目にかかった時の第一声です。出発までの6か月間何十回となくメールを交換し、準備をすすめてきました。レスターシャクラブのみ参加者8名、リューバンクラブのみは6名（他2名はキャンセル）、12名は両クラブに参加という変則的な渡航に加え、初めて渡航の新会員が、3分の1も含まれています。まず、新会員に他の会員と同様にホームステイや先方のプログラムを十分に楽しんでほしいと思いました。そして、不安を取り除き、現地へ行っても積極的に行動できるように、

- 1) ワークショップは3回きちんと出席してもらいました。（イギリス参加者は4回）
- 2) レスターシャのジェフさんが、和食を作ってもらえないかと提案してきたときに、日本人同士ではなくホストとともに作らせてほしいと申し出ました。言葉はあまり使わなくとも作業を通してアンバサダーとホストがコミュニケーションをとり、より親しくなれる

良い機会だと思ったからです。‘折り紙’書道‘盆踊り’も食後にと提案しました。

- 3) 周知のように埼玉クラブには才能豊かな会員が沢山おられます。しかし今回は、なるべく新入会員にインストラクターやMCをまかせました。みんな一生懸命役に取り組み、参加者全員が盛り上がり、楽しく‘JAPANESE EVENING’を過ごしました。

リューバンクラブのプログラムには、‘小学校訪問’という項目がありました。

さっそく ED のヒロさんに‘生徒さんたちと接する機会がありますか？折り紙ややさしい日本の歌など披露できます。’と申し出ました。

しかし当日小学校の門をくぐるまで10クラスもあり、その全部を回ることになるとは、知りませんでした。突然でしたが、その場でアンバサダーが2、3人ずつグループになり、各クラスを受け持ちました。新聞紙でカブトを作り、

頭に載せて大喜びしたのは、生徒さんだけではありませんでした。全プログラムの中でこの時間が最高だったというアンバサダーが何人もおられます。

ヒロさんはイギリスとベルギーのホーステイの中間でホテルに2泊の滞在をすすめてくださいました。ゆっくりくつろぎ会員同士の親睦のためにも良かつ

たと思います。

さて、交流も無事終わった今、レスターシャクラブ、リューバンクラブとの交流に力を貸してくださり、勇気付けてくださり、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝いたします。

ありがとうございました。

## レスターシャーの旅

外山 哲代



今回、私は、初めて、FFの渡航に参加をさせて頂き、多くの人々と出会い、沢山の新しい貴重な体験をして、帰国をしました。

私のホストファミリーは、EDのジェフさん。町に出ると、あちこちから、ジェフ、ジェフと多くのお年寄りが、声を、かけます。ボランティアとして、ご高齢者のために車で送迎をなさっているそうです。

彼自身も健康なお体という訳では、ありませんが社会に尽くすその姿勢に感銘を、受けました。

レスターシャーでは、ご自身のお体が、ご不自由なのにもかかわらず、FFの行事に参加をしている方々にお会いし、積極的な生き方を、考えさせられました。

食事の時には、本で読んだホットクロスバンやヨークシャーピングなどが供され、百聞は一見ではなく、一食に如かずとばかり、積極的に頂きました。

この旅で、コミュニケーションの大切さを、改めて認識し、普段から日本と外国の文化を学んでおくことが、より充実した、楽しい旅になることも、実感いたしました。

## ホームステイを経験して

楠田 恒雄



ホストのkathrynとGeorgeは72歳と76歳の2人住まい。息子二人を現在の住まいから2マイルほど離れたLoughborough市で育て上げたあと、広い家は不用となったので、車がなくても生活ができる今の小さい家を終の住処に選んだ。家から徒歩5分圏内に、スーパー、郵便局、病院、歯医者などが整っている。

今の小さいと言っている家でも、ロンドンに住んでいる次男が孫三人を連れて帰ってくる時には、泊らせる部屋があり、裏庭にはちょっとした庭園とテラスがあって、食事ができるテーブルもある。

高齢化が進み、平均年齢70歳となっているFF Leicestershireの皆さん、我々アンバサダーの受入れ準備で相当大変だったと思う。

なかでも、Kathrynは、Georgeを連れて歓迎会、スキットルゲーム、送別会にも参加してくれた。Georgeの体調が優れず、送別会を途中退席しなければならなかったのは、チョッと残念だったが、今回のホームステイで多くの貴重な思い出ができたことを深謝したい。

# Leicester を訪問して

渡航サブ ED 西村 介延



われわれ夫婦は Steve & Elma Brookes さん夫妻 (Leicestershire Club プレジデント) のご家庭にホームステイしました。Steve さんは、現役時代は体育の先生であり、ウォーキングやハイキングが大好きで、この9月にはフランスからスペインにかけて、歩いての2週間の巡礼を予定しているそうだ。私もトレッキングは好きのため、フリーデイには、Calked Abbey Park に連れて行ってもらい2時間ほどのウォーキングを楽しんだ。ここは、イギリスの National Trust にも登録され、自然や古木が保存されており、快適な半日だった。また夕食時等には、その日の出来事をはじめ、今のイギリス英国の社会問題、たとえば、彼の意見によれば、依然英国には階級社会 (Hierarchy や Social Class) が存在するとか、潜在的な民族問題、若者の失業率の高さなどなど、女王即位60年の華やかな話題の裏でのイギリス社会をかいま見たようで、興味深かった。

ほぼ毎日、プログラムが組まれており、忙しい一週間であり、また、本当に楽しい一週間でもあった。Geoff さん、Steve さんの惜しみない Hospitality に感謝をしたい。

## ベルギーへの旅 渡辺 弘子

以前から憧れていたベルギーへの参加が出来ることになった嬉しさと体調管理の不安が入り混じった緊張感の中での出発でした。私達のステイ先はルーベンの隣テイネンという緑豊かな郊外にあり、家の裏庭は広く野生の鹿が訪れると



いうのどかな所に一週間滞在させて頂いた。

ルーベンに入る前イギリス組と合流して二泊ブリュッセルに滞在した。ベルギーの首都でもあるブリュッセルは、ヨーロッパの中心的機能を果たす近代的な都市としても有名だが、いたる所に1000年の歴史を思わせるゴシックやバロック建築の美しい建物は市庁舎や博物館にもなっており訪れる人々を魅了し続けているようです。

ルーベンは学生の町と言われ、又教会も多くビール街でもあり、ビアウオークではすっかりビールづけになってしまいました。フルーツビールの美味しかったこと.....。

その他レースのブルージュ、ダイヤモンドのアントワープなど観光地も訪れ、私達のホストであるマリアンは何時も付き添って歩いて下さり、帰ると家ではご主人が美味しいディナーを用意してくれて、言語能力の乏しい私は感謝感激の旅でした。

## Brussels と Leuven の間に位置する Tervuren にステイ

加藤 明世



好天に恵まれた夏のイギリスから一変して、傘の手放せない寒いベルギーでした。

Brussels Bruges Antwerp と主な観光地をめぐり、Leuven 市内は FF 会員 Jos のプロガイドで案内してもらいました。

すばらしいプログラムだったと思います。また、小学校訪問では低学年とは折紙をし、高学年の子供たちは今風のダンスをみせてくれました。

どの子からも一生懸命さが伝わり楽しい時間を過ごしました。

ホスト希望者が少なく、ED のヒロさん宅で素泊まり、最悪の場合マットレスがあるだけ、という

状態でもよければといわれ、覚悟を決めていたのですが、幸いにもジョークでいつも和ませてくれたロッキーとジェラルデーンのお宅に 3 人でステイしました。

朝食用の小さなリンゴ 1 個を持って出勤する巨体のロッキー、朝食は各自、冷蔵庫にあるものでたっぷり作って食べる日本女性 3 人、対照的でした。

今後は、外国のお年寄りの生活ぶり(老人ホームなど)もみてみたいと思いました。



## ベルギーを訪問して

寒川 文光



始めて FF の渡航に参加させて頂きました。今まで海外出張をしたことはあっても、ホテルと職場の往復ということで、一般家庭等という物は無縁の存在でした。

Host の Hiro さんのお宅にお邪魔する時、途中のスーパーマーケットに立ち寄り若干の食料と水を購入しました。

このときびっくりしたのは、支払いは銀行の Debit Card で行い、商品代金より多めに支払い、差額をお釣りで貰うという仕組みです。Hiro さんのお話では、手数料がかからないし、一番便利とのことでした。

今回、Leuven では受入れが不能の分を、Hiro さんのアトリエを解放して頂いて、そこに泊まることになったため、本来食事は無く、レストラン等で、ということでした。

しかし随分食事を作って頂き、ベルギーで日本食を作るのがいかに大変か(手に入らない、とても高い:おにぎり 1 ヶはステーキより高い)というお話も聞きました。

Hiro さんは Artist です。このため各フロアに完成品、未完成品問わず沢山の絵や彫刻が飾ってありました。このように沢山の芸術作品に囲まれた生活というものも初めての経験でした。

芸術家は夜が遅いという話を聞いていましたが、Hiro さんも私たちが就寝したあとも、Leuven の方たちと連絡をとり、翌朝には新しい情報が入っている、などということがしばしばありました。

本当に不眠不休で対応して頂き、感謝の念に堪えません。





## 渡航報告会を終えて 7月1日

渡航サブED 原田 史

◎良かった点：

- ・最初の訪問先から次の都市に移る時にホテルに2泊したのがリセットになって、とてもよかった。
- ・観光地の見学の際、FFのメンバーや関係の方がガイドをされていて素晴らしかった。
- ・小学校の訪問が新しい体験で良かった。
- ・折り紙が大変喜ばれた。

◎反省点

- ・同行メンバー間の連絡表や自宅に置いてくる渡航者名簿があると良い。
- ・ホストがひどい風邪だった。今後受け入れる場合にそのような事への対応策が必要。
- ・水が貴重な地域も多いので、配慮が必要である。
- ・荷物を少なくする。プラグアダプター、適切な小銭の用意を忘れぬようにしたい。

### さいたま市 国際フェア

5月3～4日 沼 純子



さいたま市の国際フェアは例年通り連休の5月3日、4日に市民の森、見沼グリーンセンターで行われ、埼玉クラブは展示参加。3日の展示ブース紹介では問答形式でFFを紹介した。

(五十嵐、斉藤担当)

雨天のためステージ脇のテント内での放送となり残念だったが、周囲の住宅でもよく聞こえたりしく、会員の一人がかけつけてくれた。

4日は晴天となり、スタンプラリーに大勢の子どもたちがブースにやって来て、見学者にも4月のシェルビーやタイ受入れなどの様子を説明することができた。

10周年記念に植えた「つつじ」が元気に育ち、白い花をたくさんつけていたのもうれしかった。

## 埼玉クラブ20周年記念式典、祝賀会 11月6日(火)

実行委員長 岸田 正二郎



FF埼玉では今年11月クラブ創立20周年の節目を迎えます。  
多くの会員と、ご家族友人の参加をお待ちします。

11月6日(火) 12:00~15:00 大宮ラフォーレ 清水園が会場です。

参加申し込み他については後日お知らせしますが、平日でもあり予定調整を置いてください。

### クラブからのお知らせ：今後の概略スケジュール

1. 関東ブロック会議：9月1日(土) 14:00~17:00 (懇親会：17:30~19:30)
2. オーストラリア Mt. Barker and Salisbury club 受入：9月14(金)~21日(金)  
\*アンバサダー：20名(カップル5、女性8名、男性2名)
  - 1) ウェルカムパーティー：15日(土) 17:00~ 於 パルコ
  - 2) 日光バスツアー：19日(水)
  - 3) フェアウェルパーティー：20日(木)
3. 広島世界大会：10月30日~11月3日
4. 2013年の渡航・受入 予定
  - 1) オーストラリア渡航：ED 原田 史  
3月12日(火)~19日(火) Melbourne  
3月19日(火)~26日(火) Murray Bridge
  - 2) イギリス(Bristol)受入：ED 西村 純枝  
2013年4月7日(日)~14日(日)  
3月31日に愛知クラブを先に訪問後、4月7日(日)に東京駅到着予定。  
尚、この受入は、震災でキャンセルになった2011年4月受入の復活。
  - 3) ニュージーランド(Kapti Coast)受入：ED 羽島 継男  
2013年9月下旬予定  
この受入も、震災でキャンセルになった2011年5月受入の復活。

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局

広報担当：池田、西村、堀切

〒337-0052 さいたま市見沼区堀崎町 295-7

TEL：048-684-9733 FAX：048-684-9733

発行日：2012年7月31日